

平成 30 年第 7 回美唄市教育委員会会議録

1 と き 平成 30 年 3 月 29 日（木）
午後 4 時 00 分～午後 4 時 55 分

2 ところ 教育委員会室

3 出席委員

星野教育長 高橋委員 齋藤委員 土肥委員 今野委員

4 説明員

森川教育部長 阿部学務課長 西田学務課長補佐 日下学校給食センター所長
松井指導室長 谷村生涯学習課長 谷川生涯学習課長補佐 高田図書館長
高橋総務係長

5 開会

高橋委員を署名委員に指名

会期を 1 日と決定

6 議件名

議案第 16 号	美唄市立小学校・中学校通学区域規則の一部改正の件
議案第 17 号	招致外国青年就業規則の一部改正の件
議案第 18 号	美唄市コミュニティセンター設置条例施行規則の一部改正の件
議案第 19 号	美唄市放課後児童施設条例施行規則の一部改正の件
議案第 20 号	美唄市立児童館条例施行規則一部改正の件
議案第 21 号	美唄市立図書館条例施行規則の一部改正の件
その他 1	平成 30 年第 1 回市議会定例会一般質問について
その他 2	美唄市立図書館処務規程の廃止について
その他 3	美唄市体育センター処務規程の一部改正について
その他 4	美唄市立学校職員服務規程の一部改正について

概要記録

16:00

●星野教育長 ただいまから、平成 30 年第 7 回美唄市教育委員会議を開会いたします。順序第 1 会議録署名委員につきましては、高橋委員を指名いたします。次に順序第 2 会期の決定につきましては、本日 1 日といたします。次に順序第 3 教育長報告、行事報告並びに行事予定について、事務局から説明をお願いいたします。

●森川教育部長 教育長報告の前に説明員の欠席についてご報告いたします。川西スポーツ振興課長については、本日都合により欠席となりますことをご報告申し上げます。

それでは、資料に基づきまして、教育長報告、行事報告・行事予定につきまして、ご説明いたします。

※教育長報告（添付資料 別紙 1）

※行事報告、行事予定説明（添付資料 別紙 2）

●星野教育長 ただいま、教育長報告、行事報告並びに行事予定について、事務局から説明がありましたが、何かご質問等ございませんか。

●各委員 ありません。

●星野教育長 なければ、次に移ります。

順序第 4 議案第 16 号 美唄市立小学校・中学校通学区域規則の一部改正の件について、事務局から説明をお願いいたします。

●阿部学務課長 議案第 16 号 美唄市立小学校・中学校通学区域規則の一部改正の件についてご説明いたします。はじめに、平成 30 年第 1 回市議会定例会本会議において、美唄市立学校設置条例の一部改正についてご承認をいただきました。この学校設置条例の改正につきましては、平成 31 年度 4 月、中央小学校と茶志内小学校との統合、中学校におきましては、美唄中学校と峰延中学校との統合、平成 32 年 4 月には、中央小学校と峰延小学校とを統合するために学校設置条例の一部を改正したものでございます。この条例改正により、美唄市立小学校・中学校通学区域規則の一部を改正しようとするものでございます。新旧対照表の平成 31 年 4 月 1 日施行の方ですが、旧の方では別表第 1 指定校 茶志内の通学区域に茶志内町・日東町・中村町・北美唄町とございますが、これらについて、新の方では、中央小学校の通学区域の方に組み込もうとするものでございます。併せて、新の方では茶志内の表記が削られてございます。別表 2 の方ですが、中学校の峰延の峰延町・光

珠内町・豊葦町が、新で美唄中学校の通学区域に組み込まれ、峰延が削られる内容の改正となっております。併せて、平成 32 年 4 月 1 日施行の方ですが、小学校の旧の方で、峰延の通学区域 峰延町・光珠内町・豊葦町を、新で中央小学校の通学区域に加えて、峰延の通学区域を削る内容となっています。規則の改正につきましては、以上でございます。

●星野教育長 ただいまの件について何かご質問があればお伺いいたします。よろしいですか。

●各委員 はい。

●星野教育長 それでは、議案第 16 号 美唄市立小学校・中学校通学区域規則の一部改正の件については原案通り可決いたします。

次に、議案第 17 号 招致外国青年就業規則の一部改正の件を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

●阿部学務課長 議案第 17 号 招致外国青年就業規則の一部改正の件についてご説明いたします。この規則の改正の趣旨でございますが、美唄市の休日に関する条例に規定する年末年始のお休みについて、これまで国や北海道、他の官公庁の休日と異なる扱いとなっていて、市民生活や行政サービスにおける不便の解消を図るため、今年度、この条例の一部改正が行われたところであります。この条例の改正に伴い、招致外国青年就業規則も改正しようとするものでございます。新旧対照表の旧の方では、条例第 11 条で年末年始のお休みを 12 月 31 日から 1 月 5 日までとしておりましたが、新の方では、12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までと定め直すものでございます。このことで、国や北海道、他の官公庁機関と休みが同じになり、小中学校の休みと一緒にすることで、仕事の効率性が上がると考えております。施行期日については、平成 30 年 4 月 1 日でございます。以上でございます。

●星野教育委員長 ただいまの件について何かご質問があればお伺いいたします。よろしいですか。

●各委員 はい。

●星野教育長 それでは、議案第 17 号 招致外国青年就業規則の一部改正の件については原案通り可決をいたします。

次に、議案第 18 号 美唄市コミュニティセンター設置条例施行規則の一部改正の件、関連がありますので、議案第 19 号 美唄市放課後児童施設条例施行規則の一部改正の件、議案第 20 号 美唄市立児童館条例施行規則の一部改正の件を、一括議題といたします。事務局から説明をお願いします。

●谷村生涯学習課長 議案第 18 号 美唄市コミュニティセンター設置条例施行規

則の一部改正の件から議案第 20 号 美唄市立児童館条例施行規則の一部改正の件まで、関連がありますので、一括してご説明いたします。この件については、先に説明がありました議案第 17 号と同様、美唄市の休日に関する条例の年末年始の休日について、国や北海道、他の官公庁の休日と異なる扱いとなっていましたことから、市民生活や行政サービスの面で不便の解消を図るため、美唄市の休日に関する条例が改正され、その改正に基づきまして、この規則についても改正しようとするものです。それぞれ、施行期日につきましては、平成 30 年 4 月 1 日となっております。以上、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

●**星野教育委員長** ただいまの件について何かご質問があればお伺いいたします。よろしいですか。

●**各委員** はい。

●**星野教育長** それでは、議案第 18 号 美唄市コミュニティセンター設置条例施行規則の一部改正の件、議案第 19 号 美唄市放課後児童施設条例施行規則の一部改正の件、議案第 20 号 美唄市立児童館条例施行規則の一部改正の件については原案通り可決をいたします。

次に、議案第 21 号 美唄市立図書館条例施行規則の一部改正の件を議題とします。事務局から説明をお願いします。

●**高田図書館長** 議案第 21 号 美唄市立図書館条例施行規則の一部改正の件についてご説明いたします。美唄市立図書館条例につきましては、昨年 9 月の市議会定例会において、一部改正について議決をいただいたところですが、本件は条例と同様、市立図書館の指定管理者制度導入に伴う必要な改正を行うものでございます。新旧対照表の方をご覧ください。第 1 条では規則の条文中で美唄市立図書館条例を使用する際の事項について規定するものでございます。第 3 条については、先ほどから説明のありました、この 3 月定例会で議決のございました美唄市の休日に関する条例の一部改正に伴い、図書館の休館日を変更するものでございます。なお、ほかの施設は 12 月 29 日から 1 月 3 日となっておりますが、図書館の場合、その前後 1 日多くなっております。これは、12 月 28 日と 1 月 4 日は、職員は出勤して、貸し出しのみ閉館するとなっております。第 7 条では、これまで図書館の貸し出し対象者が市内に住所の有するものと記載されておりまして、実態と合わない状況となっておりましたことから、市内の会社、学校等に通勤するものを加えまして、実態に合うように条文を整理するものでございます。第 15 条につきましては、文言の重複を整理したものでございます。第 16 条には、図書館の指定管理者に関する読替規定について定めるものでございます。また、第 17 条として、新た

に教育長に委任にする条文を加えております。なお、附則におきまして施行期日を平成30年4月1日としております。よろしくご審議のほどお願いいたします。

●星野教育委員長 ただいまの件について何かご質問があればお伺いいたします。よろしいですか。

●各委員 はい。

●星野教育長 それでは、議案第21号 美唄市立図書館条例施行規則の一部改正の件については原案通り可決をいたします。

次に、その他1 平成30年第1回市議会定例会一般質問について、説明を求めます。

●森川教育部長 市議会定例会の資料に基づき、説明いたします。まず、日程の方ですが、3月1日本会議、2日、5日、6日は議案審査で、7日、8日が一般質問、9日常任委員会、12日から16日まで予算審査特別委員会が行われまして、19日は地域医療体制等調査特別委員会が行われ、20日委員長報告作成日、21日休会で、22日本会議に先立ちまして、地域医療体制等調査特別委員会、本会議において、市政報告、委員長報告、単行案件上程、人事案件上程、承認案件上程、意見書案上程が行われました。教育委員会関連案件では常任委員会で、美唄市立学校設置条例の一部改正の件と市道路線の廃止の件、予算審査特別委員会では平成29年度美唄市一般会計補正予算、小中学校暖房用燃料費の補正、平成30年度美唄市一般会計当初予算を上程いたしまして、原案通り可決をしております。一般質問については、全部で9人の議員の方が一般質問に立ちまして、うち6人の議員の方に教育関連の一般質問を受けました。一般質問の内容について、資料に基づきまして、説明いたします。

※一般質問答弁内容説明（添付資料 別紙3）

●星野教育長 その他1 平成30年第1回市議会定例会一般質問について、何かご質問等はございませんか。

●土肥委員 アルテピアッツァ美唄ビジョンの質問の答弁の中で庁内検討委員会と出てきていますが、この委員会の構成についてはどのようになっていますか。

●谷川生涯課長補佐 庁内検討委員会は課長職を中心にして教育部長が座長ということで、以下、生涯学習課長、総合政策課長、都市整備課長、都市建築住宅課長、観光振興課長をもって構成されている委員会になります。

●今野委員 道徳が教科になることによって、中学校は道徳の教科担任が付くことになるのですか。それとも学級の担任が授業をすることになるのですか。

●松井指導室長 学級担任が行うことになります。

●今野委員 学級担任が行う場合、担任の思想によって各クラスの授業内容が変わることないですか。

●松井指導室長 教科書があり、そこから外れることはないです。

●星野教育長 他に何かありますか。

●各委員 ありません。

●星野教育長 それでは、その他 1 平成 30 年第 1 回市議会定例会一般質問については、終わります。

次に、その他 2 美唄市立図書館処務規程の廃止について、説明を求めます。

●高田図書館長 美唄市立図書館処務規程の廃止についてご説明いたします。美唄市立図書館処務規程は、美唄市立図書館条例に基づき、図書館の運営組織及び事務処理について、係の設置、職員の任務、係の分掌事務、館長の専決事項、事務の代決、職員の勤務時間等を定めた規程でございますが、本件は図書館の指定管理者制度の導入に伴いまして、教育委員会の職員がいなくなりますことから、これらの規程が不要となり、廃止するものでございます。なお、附則において施行期日を平成 30 年 4 月 1 日と定めております。ご報告いたします。

●星野教育委員長 ただいまの件について何かご質問があればお伺いいたします。よろしいですか。

●各委員 はい。

●星野教育長 ないようですので、その他 2 美唄市立図書館処務規程の廃止については、終わります。

次に、その他 3 美唄市体育センター処務規程の一部改正について、説明を求めます。

●森川経部長 その他 3 美唄市体育センター処務規程の一部改正について、ご説明いたします。本件は職員の勤務時間、休憩時間、休日及び週休日の条項の休日の事項について、美唄市の休日に関する条例の改正に合わせて、一部改正をしたものでございます。具体的には、年末年始の休日を、これまでの 12 月 31 日から 1 月 5 日だったものを、12 月 29 日から 1 月 3 日に改正したものでございます。以上、ご報告いたします。

●星野教育長 ただいま、説明がありました件について、何か質問等ありますか。

●各委員 ありません。

●星野教育長 ないようですので、その他 3 美唄市体育センター処務規程の一部改正については終わります。

次に、その他 4 美唄市立学校職員服務規程の一部改正について、説明をお願いします。

●阿部学務課長 その他 4 美唄市立学校職員服務規程の一部改正についてご説明いたします。本件につきましては、北海道立学校職員服務規程の一部改正に伴いまして、規程の改正を行うものです。道の規程を、市の小中学校の規程に準用していく考えをもっておりますので、同じような規程にしていこうということになります。新旧対照表をご覧ください。第 12 条（外勤）のところになります。12 条では学校の職員、これは教職員になりますが、職員が一時的に学校を離れて勤務する場合は、外勤簿に記載をし、勤務の命令をすることになっていましたが、それについて、今後、簡略いたしまして、学校長の口頭による命令で行うことといたしました。これらのほか、様式の改正等もありましたが、主の改正内容はこのことになります。施行期日は平成 30 年 4 月 1 日といたします。以上でございます。

●星野教育長 ただいま、説明がありましたが、何か質問等ありますか。

●各委員 ありません。

●星野教育長 ないようですので、その他 4 美唄市立学校職員服務規程の一部改正については終わります。

本日の議事については終了しましたが、他、何かありますか。

なければ、これをもちまして、平成 30 年第 7 回美唄市教育委員会議を閉会いたします。

17:55 終了

以上会議の顛末を記載し、その相違無いことを証するためここに署名する。

署名委員 高橋 泰浄

【別紙 1】

教 育 長 報 告

自 平成 30 年 2 月 27 日

至 平成 30 年 3 月 28 日

区 分	会 議 等	
2月27日	第 4 回教育委員会議	教育委員室
28日	第 1 回統合準備委員会(峰延中・美唄中)	美唄中学校
3月 1日	第 1 回市議会定例会 (～22 日)	議場ほか
2日	感謝状贈呈式 (J Aびばい)	市長応接室
2日	学校運営協議会 (東小)	東小学校
8日	第 5 回教育委員会議	
8日	市内高等学校教育振興会設立総会	教育委員室
13日	「交通安全マスコット」寄贈 (老人クラブ連合会女性部)	教育長室
13日	学校運営協議会 (南美唄小)	南美唄小学校
19日	小学校卒業式	小学校
20日	チャレンジデー実行委員会	市長会議室
23日	「防犯ベル」寄贈 ((株) 岸本組)	教育長室
23日	「食農補助教材」寄贈 (J Aバンク)	教育長室
23日	第 4 回空知管内市町教育委員会教育長会議	空知合同庁舎 (岩見沢市)
26日	第 4 回北海道幼児教育研究協議会	TKP 札幌ビジネスセンター (札幌市)
28日	第 6 回教育委員会議	

上記のとおり報告する。

平成 30 年 3 月 29 日

美唄市教育委員会

教育長 星 野 恒 徳

【別紙2】

2 月 行 事 報 告

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	対 象
27	火				
28	水				

3 月 行 事 報 告

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	対 象
1	木				
2	金	読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	市民
3	土	市内小中学校絵画・書道展③(～11日)	9:00	安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄	市民
4	日	美唄サテライト・キャンパスwith札幌国際大学合同演奏会	13:30	市民会館大ホール	市民
5	月				
6	火	第12回定例校長・園長会議	9:30	第4会議室	関係者
7	水	第12回定例教頭・主幹教諭会議	9:30	第4会議室	関係者
8	木				
9	金				
10	土	おはなしの会ブックスタート(3歳児)	10:30	図書館児童室	市民
11	日	3on3バスケットボールフェスタ	9:30	総合体育館	関係者
12	月	中学校卒業式		各中学校	
13	火				
14	水				
15	木	ブックスタート(7か月児)	13:00	保健センター	市民
16	金	読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	市民
17	土	おはなしの会ブックスタート(3歳児)	10:30	図書館児童室	図書館
18	日				
19	月	小学校卒業式		小学校	
20	火	栄幼稚園卒園式		栄幼稚園	
21	水				
22	木	ブックスタート(3歳児)	13:00	保健センター	市民
23	金	おはなしの会ブックスタート(3歳児)	10:30	図書館児童室	市民
24	土				
25	日				
26	月				
27	火				
28	水				

4 月 行 事 予 定

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	所 管
1	日				
2	月				
3	火	臨時校長・園長会議		市民会館会議室	指導室
		転入教職員辞令交付式		市民会館大会議室	学務課
4	水				
5	木				
6	金	小・中学校入学式		各学校	
		読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	図書館
7	土				
8	日				
9	月				
10	火				
11	水	第1回定例校長・園長会議	9:30	第4会議室	指導室
12	木	ブックスタート(7か月児)	9:20	保健センター	図書館
13	金				
14	土	おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	図書館
15	日				
16	月				
17	火				
18	水	第1回定例教頭・主幹教諭会議	9:30	第4会議室	指導室
19	木				
20	金	読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	図書館
21	土	おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	図書館
22	日				
23	月				
24	火	第1回青少年指導員・専任指導員会議	15:30	市長会議室	生涯学習課
25	水				
26	木	3歳児ブックスタート	9:20	保健センター	図書館
27	金	おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	図書館
		地域青少年指導対策協議会	13:30	大会議室	生涯学習課
28	土	子ども読書週間特別展「おおきな絵本」(～5/13)		図書館	図書館
29	日				
30	月				

【生涯学習課】

街頭指導 19日(木)

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

桜井 龍雄 議員
教育委員会学務課

件 名 3 教育行政について

中項目 (1) 給食費の無償化について

質問内容

①学校給食の無償化について

- ・近隣では三笠市が小学校の給食を無償化しているほか、道内でも無償化に取り組む市町村が増えていると伺っています。
- ・本市においても、少子化対策や子育て世代の移住定住対策として、学校給食費の無償化について検討しては如何か。
- ・また、学校給食費の無償化を実施した場合の必要となる費用について伺う。

答弁内容

（学校給食費の無償化について ）であります、
子育て環境の充実や子どもの貧困などを背景に、独自に給食費を無料にする自治体が増え、平成 28 年度までに約 60 自治体で実施していることを踏まえ、文科省では、平成 29 年度、公立小・中学校の給食費の無償化に関する全国調査を実施し、無償化とした自治体においては、補助制度の枠組み、実施校数と予算額、実現に至った経緯、財源確保をはじめ実施前後の課題、給食費の徴収状況などを調査項目とし、本年度中にまとめる予定となっているところであります。

道内では、三笠市など 18 自治体で学校給食費の無償化を実施していると同っておりますが、教育委員会といたしましては、単に家計の負担軽減だけではなく、給食費の無償化が児童生徒や保護者、学校にとって、どのようなメリットがあるのか、人口減少対策に取り組む自治体において、この給食費の無償化が子育て世代の移住・定住に繋がったのかどうか等々、この調査結果を参考に、市の子育て支援策をはじめ各施策の中で、施策の優先度について議論を深めてまいりたいと考えております。

次に、給食費の無償化を実施することとした場合に必要となる費用についてですが、本年度の小学校及び中学校の児童生徒数をもとに試算しますと、小学生の給食費を無償化する場合は概算で年間 3,900 万円、中学生まで無償化する場合は 6,700 万円ほどになると見込まれるところです。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

桜井 龍雄 議員
教育委員会学務課

件 名 3 教育行政について

中項目 (2) 市民会館について

質問内容

本会議において、教育長から報告のあった NPO 法人美唄市文化協会関係者による不正受給について、刑事告訴に至った経緯を伺います。

答弁内容

(刑事告訴に至った経緯について) であります。

平成 26 年度に、教育委員会が美唄市民会館文化補助事業補助金として交付した 2 つの事業について、美唄市民劇場の当時の 3 名の役員から調査依頼書の提出があったことを受け、2 月 13 日、市民会館会議室において、当該補助金の申請ほか、書類作成に関わった関係者への聞き取りに合わせ、関係諸帳簿等を調査したところです。

聞き取り調査は、この事業に関わったとされる平成 26 年当時、美唄市民劇場会長であり美唄市文化協会理事長でもあった関係者並びに当時、美唄市民劇場会員であり、先月まで美唄市文化協会の職員であった関係者に対して調査を実施したところです。

この調査の中で、「イリス弦楽四重奏団美唄コンサート」に関わった当時の会長からは、書類は当時の会員が作成し補助申請や実績報告書の提出は同意したが、経理の内容を含め詳細については分か

らない旨の説明がありました。また、当時、書類を作成した関係者からは、平成 26 年当時、美唄市民劇場は活動していなかったため、美唄市民劇場の当時の会員 2 名に実施する旨話をした上で、補助申請を行ったので、当時の市民劇場が知らないということにはならないとの申立てがあったところではありますが、この申立てについては、平成 29 年度に開催された美唄市民劇場の総会資料に当該事業の記載がないこと、さらに市民劇場の当時の会員へ話したとされる 2 名への聞き取りの結果、その事実はない旨確認したところであります。

聞き取り内容を踏まえ、関係書類等を調査確認した結果についてであります。調査依頼人の申し立てのとおり、通帳の入金、出金の記録、会計書類において、美唄市民劇場から美唄市文化協会口座に預金が移されていること、事業等実績報告書に記載されている収入及び支出の形跡がないこと、当時の預金残高から、報告書に記載されている事業の支出が確認されなかったことに加え、領収書の改ざん、架空の領収書の作成の事実が確認されたところです。

また、当該事業については、美唄市文化協会を主催者として、独立行政法人日本芸術文化振興会からも同額の 20 万円の補助金を受給していることが確認され、2 つの実績報告書を照らし合わせた結果、ほぼ同一の事業費の中で、収入及び支出が重複する二重の収支決算と判断される補助金手続きがなされていることが確認されたことに加え、同一支払いに対して宛先が異なる 2 つの領収書や架空の領収書の存在が、それぞれに確認されたところであります。

また、「風間杜夫落語独演会&トークショー」についても、本来、美唄市民劇場の口座にあるべき教育員会からの補助金 60 万円及びチケット収入の殆どが美唄市民劇場から美唄市文化協会口座に移し替えられているなど、補助金の交付規定に違反するものと判断される不適切な会計処理が確認されたところであります。

教育委員会では、これら確認事項に基づき、弁護士に相談したうえで、補助金手続きに関与した関係者 2 名により補助金を不正受給

した可能性があるものとして、3月2日、美唄警察署へ詐欺罪、横領罪に当たるものとして告訴状を提出したところであります。

なお、独立行政法人日本芸術文化振興会からの補助金についても、補助金の不正受給があるものと判断されることから、相手方に内容を報告し、現在、対応を確認しているところです。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

桜井 龍雄 議員
教育委員会学務課

件 名 3 教育行政について

中項目 (2) 市民会館について

質問内容

経過は分かったが、美唄市文化協会は、現在、市民会館の指定管理を受託している団体だが、このような行為をしていた職員がいた団体に対して、指定管理を継続することはどうかと思うが、不正行為を行った個人及び美唄市文化協会としての、今後の対応について伺います。

答弁内容

(今後の対応について) であります、

当時、美唄市民劇場の会長及び会員である一方、美唄市文化協会の当時の理事長及び職員でもあった関係者 2 名による補助金の不正受給の可能性があるものとして個人を告訴したところでありますが、告訴状を警察が受理するかどうかは、警察の判断によるところであり、訴状内容については、警察の対応に委ねていきたいと考えております。

また、美唄市文化協会に対する刑事的責任を追及していないところでありますが、関係者 2 名は、美唄市文化協会の役員と職員であったことに加え、美唄市民劇場の預金が美唄市文化協会の指定口座に振り替えられ、平成 26 年度の財務諸表にも記載されていること

を踏まえると、2 名が行った行為とは言え、当時から現在に至るまで、この会計処理に気が付かなかった組織として、また市民会館を管理運営する指定管理者として、その社会的責任を重く受け止めていただきたいと考えております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

再々質問

桜井 龍雄 議員
教育委員会学務課

件 名 3 教育行政について

中項目 (2) 市民会館について

質問内容

ただ今の答弁は、教育委員会として特に行政処分を行わないということですか。

私は指定管理者としての行政処分は当然あるべきと考えるが、再度、教育長の考えをお伺いします。

答弁内容

（指定管理者に対する行政処分について ）であります、
現在は、平成 28 年 4 月に締結した協定書により管理運営を行っているところであり、この不正受給と判断した内容に関しましては、平成 26 年度のことであります。

美唄市文化協会は、平成 28 年 4 月以降今日まで、美唄市の指定管理の手続き条例や指定管理者の運用指針並びに協定書に規定されている指定取り消しや一部業務停止事項に該当するような管理運営を行っていない現状、この事案をもって、現在の手続きの中で指定取り消しなどの重い行政処分は出来ないものとして、教育委員会議の中で確認しているところではありますが、今回の件は、指定管理者の関係者だったという社会的責任を鑑み、信頼回復に向け、抜本的な組織体制の見直しのほか、会計処理の透明性、指定管理業務と自

主事業業務の適正な区分けや、美唄市文化協会が抱える累積欠損金の早期解消等、業務改善に向けた指導を行い、文化振興の先頭に立つ美唄市文化協会との信頼関係を保持していきたいと考えております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

森川 明議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政について

中項目 (1) 体力テストについて

質問内容

スポーツ庁は 2 月 13 日、小学 5 年生と中学 2 年生を対象として実施した 2017 年度全国体力テストの結果を公表した。結果を見ると、体力向上が進んだものの、47 都道府県中、北海道は小 5 男子が 35 位、小 5 女子が 40 位、中 2 男子が 42 位、中 2 女子が調査開始以来 9 年連続の最下位となっている。道内は雪による運動不足が考えられるが、市の状況について伺う。

①市には該当校があったのか。

②全国統一の 8 種目は多過ぎないか。

③子どもが運動に親しむために、どのような競技の工夫がされているか。

答弁内容

（全国体力・運動能力・運動習慣等調査について）であります、この調査は、子どもの体力・運動能力等が低下している状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し状況を把握し改善を図ることを目的として実施し、各学校は、この調査結果を継続的に把握・分析し、児童生徒の体育・健

康等に対する指導などの改善に役立っているところであります。

市内各小学校ではすべての学校の５年生を対象に、毎年、握力、上体起こし、長座体(ちょうざたい)前屈(ぜんくつ)、反復横跳び、２０ｍシャトルラン、５０ｍ走、立ち幅跳び、ソフトボール投げの８種目の調査を実施し、市内各中学校では、すべての学校の２年生を対象に、ソフトボール投げをハンドボール投げに替え８種目を実施することとしております。平成２９年度的美唄市における調査状況では、小学校５校・中学校４校のすべての学校で調査要項に従って実施されております。

８種目の運動調査の項目についてであります、子どもの運動能力や体力の状況を把握するために最も適切であると文部科学省が総合的に判断した種目であり、実技調査の実施に当たっては、児童生徒の健康状態を十分把握し、事故防止に万全の注意をはらい、各学校の状況に応じて実施されております。

本年度の美唄市の調査の結果についてですが、数値公表されておられませんので、全国・全道との実施種目の得点を総合的に数値化した体力合計点で全国・全道と比べて申し上げますと、差が１ポイント未満を同様、差が１から３ポイント未満をほぼ同様、差が３～５ポイント未満をやや高い・低い、差が５ポイント以上を高い・低いと表現させていただきますが、小学５年男子では、全国と同様、全道とほぼ同様、小学５年女子では、全国と同様、全道とほぼ同様となっております。中学２年男子では、全国よりやや低く、全道とほぼ同様、中学校２年女子では、全国より低く、全道よりやや低くなっており、小学校５年男子以外は、全国・全道より僅かですが低い結果となっております。

この結果を受け、市内各小学校では、運動に親しむために体育の授業だけでなく休み時間や放課後において、縄跳び集会や一輪車、パークゴルフなど運動環境の整備を図りながら、運動習慣づくりに取り組んでいるところです。

また、市内各中学校では、運動部活動の充実はもとより、陸上大会

や球技大会等の行事等を練習期間も含め、運動に親しむ意識の醸成を図っているところであり、今後とも、引き続き、この調査結果を把握分析し、児童生徒の体力・運動能力の向上に努めてまいります。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

森川 明議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政について

中項目 (1) 体力テストについて

質問内容

- ①全国統一 8 種目は、多過ぎで、市の教職員が負担増となっていないか。
- ②教育長の執行方針、体力の向上「1 校 1 実践」は、具体的に各学校でどのようなことが行われているのか。

答弁内容

（全国統一の 8 種目の実施における教職員の負担について ） であります、
各小中学校においては、体育の年間授業計画に組み入れ、全 8 種目を数日に分けて実施しており、握力については、昼休みや放課後に担任が子どもたちとの触れ合いの中で数値確認する等、各学校で工夫して実施しているところです。
一校一実践の取組についてであります、
小学校においては、2 時間目終了の休み時間や昼休み、放課後の時間帯において、縄跳び集会や一輪車競争、パークゴルフ等を児童会主催で企画し、児童の自主性の中で運動習慣づくりに取り組んでいるところです。
中学校においては、一校一実践の取組を運動部活動の中で取り入

れ、生徒それぞれの健康状況に配慮しながら個々に応じた練習に取り組ませるとともに、陸上大会や球技大会等の体育的行事において、生徒同士がお互いに声をかけ合ったり、応援したりすることで運動への意欲や興味を醸成させ個々の体力向上に繋げているところです。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

再々質問

森川 明議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政について

中項目 (1) 体力テストについて

質問内容

答弁によって8種目は効果分析の結果があるにしても多すぎます。特に昼休みや放課後まで、担任教員が工夫して対応している事は、負担もそれなりにありますので、体育の時間等、授業中に行うように配慮すべきです。

各学校ごとの実態を知りたかった訳ですが、複数種目の実施、他校との連携もあり難しい面もあるようです。ただ、この件も休み時間、放課後の時間帯は、児童・生徒、更に教員の負担もありますので、検討の余地はあると思うが、改めて伺う。

答弁内容

(体力テストと一校一実践の取り組みについて) であります、各学校において、教師の負担とならないよう工夫しながら、児童生徒の体力向上に努めてまいりたいと考えております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

森川 明議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政について

中項目 (2) 児童、生徒の肥満対策について

質問内容

道内で肥満傾向にある子どもの割合は、5 歳から 17 歳のすべての年齢で全国平均を上回ったことが、12 月 22 日に公表された文科省の 2017 年度学校保健統計調査結果で分かった。これは 4 年連続で、適度な運動や生活習慣の改善が求められる。次の点を伺いたい。

- ①全国と道内を比較した男女の実態
- ②美唄市の状況
- ③改善に向けた対応策

答弁内容

(児童生徒の肥満について) であります、
先に答弁いたしました全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果で申し上げますと、全国と全道の比較では、軽度肥満以上の割合は、小学校 5 年男子では、全道が全国をやや上回り、小学校 5 年女子では、「ほぼ同様」、中学校 2 年男子では、「ほぼ同様」、中学校 2 年女子は、「同様」であります。

美唄市の結果につきましては、軽度肥満以上の割合が小学校 5 年男子では、全国よりやや上回り全道と「同様」、小学校 5 年女子では、全国よりやや上回り、全道とほぼ「同様」であります。中学校

2年男子では、全国と「ほぼ同様」であり、全道よりやや下回っており、中学校2年女子では、全国・全道ともに「ほぼ同様」となっております。

このことから美唄市の軽度肥満以上の割合は、小学校5年男女ともに同程度ですが全国より多く、全道と同程度、中学校2年男女では、同程度ですが全国より少なく、全道と同程度という結果となっております。

次に、肥満改善に向けた取組ですが、

全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果から本市においては、僅かな差ですが、小学校5年生に肥満の傾向が全国より高かったところであり、肥満傾向のある児童生徒に対しましては、適度の運動とバランスのとれた栄養摂取の必要性について認識させ、肥満解消に向けた指導を行うとともに、運動した時間や起床・就寝時刻等を記入する生活リズムチェックシート等を使って、日常生活の改善を指導してまいります。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

森川 明議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政について

中項目 (3) 日の丸、君が代について

質問内容

1999 年に制定された「国旗・国歌法」は、第 1 条で「日の丸」を国旗と、第 2 条で「君が代」を国歌と定めただけで、尊重義務規定を盛り込んでいない。そのことは、学校行事などで、掲揚、斉唱すべき義務を課したり、掲揚に反対したり、歌わなかった人に対して不利益を課するなどの規定はおいていない。市は過去のこの件について、学校現場が混乱するという不幸なことが起こっており、憲法第 13 条は「すべての国民は個人として尊重される」、第 19 条「思想及び良心の自由はこれを侵してはならない」とうたっている。教職員は憲法で保障されている内心の自由により、秩序や服従を余儀なくされる事態、伸び伸びとした学校が保障されているとは思えない。あくまでも、卒業式や入学式は「子どもたちが主役」とした行事とすべきである。伺いたい点は、

- ①道教育委員会から新たな通達がなかったのか。
- ②教育委員会職員の随行出席の任務とは。

答弁内容

(日の丸・君が代について) であります、

国旗・国歌に関する通達につきましては、本年度におきましては、平成29年7月31日付で北海道教育委員会より発出されております。

通達内容につきましては、これまで同様に、国旗・国歌の意義を理解させ、これを尊重する態度を育てるとともに、諸外国の国旗・国歌も同様に尊重する態度を育てるという観点から、学習指導要領の趣旨を踏まえた適切な実施に努め、卒業式及び入学式は、厳粛で清らかな気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるような儀式的行事の意義を踏まえた内容となるよう通達されております。

美唄市の本年度の卒業式につきましては、小学校が3月19日、中学校が3月12日に、入学式は4月6日に一斉に行われ、式においては、教育委員会が各学校で告示を述べますことから、学校までの送迎のために職員が公用車を運転しているところであり、式の間は、職員は、会場の一般席において、子どもたちの晴れの門出を共にお祝いさせていただいております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

森川 明議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政について

中項目 (3) 日の丸、君が代について

質問内容

7 月 31 日付け道教委の通達で、卒業式、入学式は、儀式的行事の意義を踏まえるとの件、例えば国旗は三脚でなくステージに吊すとか、卒業証書はフロア形式ではなくステージ形式で行う、国歌は大きな声で歌う、国歌は生演奏となるようにとか強制が行われている。教育には、強制はなじまない。通達に含まれているのか。

答弁内容

（北海道教育委員会からの通達について ）であります、先の通達では、これまでと同様に儀式的行事の意義を踏まえた内容となるように国旗・国歌の指導が適切に行われるように求められており、本市においては、儀式的な行事の意義を踏まえた卒業式、入学式が行われていると判断しております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

松山 教宗 議員
教育委員会学務課

件 名	4	教育行政について
中項目	(1)	東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致について

質問内容

東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致についてこれまで取り組んできた経過と、それらを踏まえて、引き続き取り組むのか？一般的なスポーツ合宿や市内の特色のある施設を活かす取り組みへの転換などについて伺います？

答弁内容

（東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致について）でありますが、

本市における東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿誘致実現のために、これまで、関係機関では、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会などを訪問し、各競技団体では、日本卓球協会、日本山岳協会、日本バドミントン協会、日本ハンドボール協会、日本車いすバスケットボール連盟、日本ブラインドサッカー協会などを訪問し、各競技団体の合宿条件などの情報収集を行うとともに、一部の競技団体には複数回訪問し PR をするなど、合宿誘致に取り組んでまいりました。

さらに、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた講

演会や合宿誘致に関する研修会、フォーラムに参加したほか、札幌市で開催された北海道スポーツ交際交流フェアにおいて、事前合宿誘致のブースの開設とプレゼンテーションを行い、中国、韓国、シンガポール、カザフスタンなど約 30 カ国の参加者に PR を行ったほか、30 カ国中 14 カ国の担当者と直接交渉を行ってまいりましたが、その後の問い合わせなどではなく、また、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会や全国知事会が運営するキャンプガイドサイトに、市のスポーツ施設や宿泊施設の情報を掲載しましたが、これについても、問い合わせなどはありませんでした。

今年度は、カナダパラリンピック委員会及びカナダ車いすスポーツ協会の委員が訪れ、車いすラグビーの事前合宿地としての視察を受け入れ、練習会場の総合体育館、宿泊施設のゆ〜りん館を案内しましたが、新千歳空港からの移動距離が長いこと、総合体育館に空調設備がないこと、宿泊部屋が畳であることなどから、合宿地には選定されませんでした。

これまで約 3 年間にわたる東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致に関する情報収集や誘致活動の結果を踏まえ、本年 2 月、庁内検討委員会において、東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿誘致については、スポーツ振興を通じた健康都市づくりを推進するための施策のひとつであるが、本市における合宿の受入にあっては、主に練習施設となる総合体育館の照明器具、空調設備、トイレ・シャワー室などの大規模な改修が望ましいが、財政状況上極めて難しいこと、外国人選手の受け入れにあっては、言語や食事の対応などの受け入れ体制の課題があること、比較的可能性のある途上国・新興国やパラリンピック種目については、交通費などの経済的支援を求められることなど、これまでのオリパラの事前合宿誘致の取組みを通じて、解決が困難な課題があると判断したところでございます。

これら課題を踏まえ、今後はオリパラ誘致活動を行わず、既存施設を活用し、学生・社会人等を対象としたスポーツ合宿誘致への方

向転換を検討すべきとの結論に至り、3月の政策会議において最終決定したところであります。

このことから、教育委員会としましては、市内にあるスポーツ施設を活用し、学生・社会人等を対象としたスポーツ合宿誘致に取り組んでいくほか、体育センターにある本格的なクライミング壁をPRし、合宿誘致はもちろん、大会開催誘致など他の自治体にはない特色を活かし、スポーツ振興に努めてまいりたいと考えております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

松山 教宗 議員
教育委員会学務課

- | | | |
|-----|-----|----------------------------|
| 件 名 | 4 | 教育行政について |
| 中項目 | (1) | 東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致について |

質問内容

東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致について、今後誘致活動を実施せず、既存施設を活用し学生や社会人等を対象にしたスポーツ合宿誘致に方向転換されると判断されました。

誠に残念ではありますが現状を考えますと懸命な判断をされたと思います。

受け入れるには諸々の課題があることが浮き彫りになりましたし、方向転換し引き続きスポーツ合宿誘致をするには、まず総合体育館のトイレの洋式化とシャワーなどの改修が重要であると思います。

そこで、これまでも質問をしてきましたが市民にとっても最も必要な拠点ともなる体育館施設でもありますので、財政は厳しいとはいえ市民サービスにも直結しますので早急に対応すべきと考えますが、伺います。

答弁内容

(総合体育館のトイレ洋式化並びにシャワー室の改修について)
であります、

東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致に関連した整備には、床暖房用の配管など複数の床下配管の関係から大規模改修を見送ったところであります。しかしながら、総合体育館を利用している市民の方からは、和式トイレは使用しづらいとの声もありますことから、今後、改修規模を含め、どのような改修の方法が良いのか工事担当部局と協議してまいりたいと考えております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

松山 教宗 議員
教育委員会学務課

件 名	4	教育行政について
中項目	(2)	安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄ビジョン（案）について

質問内容

1 つ目は、25 周年の記念事業として、補正予算で「安田侃のまなざし展」を開催したが、結果はどのようなになったか。

2 つ目は、昨年 12 月中を目途に将来ビジョンを策定と聞いていたが、結果的には年度を跨ぐことになるが、策定が遅れた要因はどのようなものか。

3 つ目は、策定内容は、施設のあるべき方向性、彫刻の維持保全の考え方などのハード面と、市民が親しみ、芸術文化活動への参加高揚の在り方につながるソフト面などとあったが、どのようなになっているか。

4 つ目は、ビジョンを推進するにあたり、市と市民との間に温度差があると感じているが、その差を埋めるような施策の展開について、どう考えているのか。

答弁内容

（アルテビジョンについて）であります、

はじめに、安田侃のまなざし展についてであります、昨年 10 月 7 日から 16 日までの 9 日間の日程で開催し、期間中約 2,000 人、1 日平均約 220 人の来館者があり、前年同月の 1 日平均来館

者、約 60 人と比較しますと、10 月 14、15 日のイタリア人のオペラ歌手を招いて開催したコンサートの入場者約 600 人を差し引いても、来館者が増えたものと思われ、一定の成果があったものと考えております。

次に、安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄のビジョン素案の作成が遅れた経過についてであります。素案の作成につきましては、昨年 5 月中旬に作家と教育委員会において施設の在り方について意見交換を行い、その後、7 月に 3 回、施設整備や管理体制の在り方や財源確保の可能性について、新たな美術館の必要性について NPO 職員や一部の理事と意見交換し、8 月に将来ビジョン策定に向け、庁内検討委員会を設置し、設置目的や今後の策定スケジュールについて確認したところであります。

その後、9 月から 10 月にかけては、台湾からのインセンティブツアーへの対応やまなざし展の開催準備のため作業を一旦中止したところであります。

その後、11 月になり、一般社団法人地域総合整備財団、通称「ふるさと財団」の地域再生マネージャー事業を活用し、外部専門家から本市文化財などの活用や本美術館の方向性についてご意見を頂くとともに、これまでに集められた意見などを参考に、12 月に再度、NPO 法人から意見を聞き、その内容をもとに、本年 1 月下旬から 2 月中旬にかけて、庁内検討委員会を 1 回、そのほか庁内検討委員との個別の意見交換を 3 回行い、2 月下旬に、素案の内容を作家に説明し、ご理解をいただいたうえで、2 月 26 日の経営会議に諮り素案の決定をしたところであります。

次に素案に示す内容についてであります。ビジョンの期間は、平成 30 年から 10 年間とし、構成としては、現状と課題を整理し、施設の状況などを把握したうえで、施設及び作品の保全策、新たな美術館棟の整備や財源確保等、具体的な施策やスケジュール予定に

ついて記載しているところでございます。

次に、市民理解についてですが、平成 29 年に実施された観光振興課のアンケート調査によりますと、市民の興味度が低い傾向にありますことから、今後、本美術館について、広報紙や様々な機会を通じて PR し、本美術館の価値や魅力を市民の皆さんに知っていただくことで、理解者・協力者を増やしていくとともに、指定管理者と定期的開催する会議の中でも、市民理解を深める方法について検討してまいりたいと考えております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

松山 教宗 議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政について

中項目 (3) サテライトキャンパスについて

質問内容

1 つ目は、本年で 6 年目を終え、7 年目に向かい事業展開を検討しているところであると思いますが、これまでの効果検証はどうなっているのか、伺います。

2 つ目は、今後の運営協議会やカリキュラムなどは、本市の目的や位置づけなどとどうつなげていくのか。今後のサテライト・キャンパス事業を進める上での課題について伺います。

答弁内容

(サテライト・キャンパスについて) であります。

平成 24 年度から本年度まで 6 年を経過したところであり、これまでに開催した講座数は 77 講座で、毎年度、13 講座程度実施してまいりました。

受講者につきましては、延べ 1,450 名に受講していただきましたが、年々、受講者が減少傾向にあることから、平成 27 年度からは、より魅力的な講座となるよう、生涯学習の視点に立った市民教養講座を充実させるとともに、平成 28 年度からは、市職員の研修、道民カレッジ連携講座として位置づけ、受講機会の充実に努めてきたほか、これまで市民カレッジとして無料で実施してきた講座

を、サテライト・キャンパス事業の中で「びばいふれあい講座」として引き継ぐなど、この6年間の中で受講者の掘り起こしに努めてきたところであります。

また、連携する大学との協働事業においては、それぞれの大学の知見を活用し、主に、子どもたちを対象とした事業を展開しており、特に、平成26年度から実施している札幌大谷大学との協働事業であるオオタニアートキャラバンin美唄では、毎年1校程度の市内の小中学校を会場に、小学校の図画図工、中学校の美術の時間を活用し、学生との創作活動や札幌市の美術館などに行かなければ観ることができないような美術作品を見られるなど、子どもたちは、この協働事業を通じて貴重な体験をしているところでございます。

この取組に対して中学校の美術の先生からは、アートキャラバンを経験している子どもたちは中学校の美術への取り組む姿勢が良くなってきていると評価をいただいているほか、大学からは、アートキャラバンに参加した学生の教員採用に合格する学生が増えているとの評価をいただき、本市及び大学にとって、win・winの効果がある事業であると判断しております。

このほか、サテライト・キャンパス事業を実施している中で、自主活動グループの発足や市民の方が講師となり講座を開催するなど、サテライト・キャンパス事業の広がりが見られていることから、地元で高等教育を受ける機会が少ない市民にとって、このサテライト・キャンパス事業は、生涯学習機会の提供の場やまちづくりを担う人材養成の場として着実に浸透しているものと判断しており、教育委員会といたしましては、より一層、事業の充実に努めてまいりたいと考えております。

次に、サテライト・キャンパス事業を進める上での課題についてであります。サテライト・キャンパス事業は、美唄市、教育委員会、美唄商工会議所、美唄観光物産協会、美唄地域人材開発センター運営協会を構成団体として設立された運営協議会と札幌国際大

学、札幌大学、札幌大谷大学、酪農学園大学との協議の中で、食・農・環境などを活かした新たな地域づくりを進める意欲ある人材を育成するとともに、生涯学習講座の受講を通じて、住み慣れた地域で豊かさを実感できる暮らしを実現させることを目的に、毎年度、時代状況に応じた内容を選択した中で展開しているところでありますが、市外からの参加割合が低いことが課題となっているところであります。

このため、今後におきましては、市内の事業者や従業員、市民に止まらず、周辺市町の住民の利用も促進し、本市が南・中空知圏における広域的な人材育成の拠点となるよう、協力大学等の全面的な協力を頂くとともに、運営協議会のネットワークをフル活用し、市外の事業者や従業員の受講者の増加を目指していきたいと考えております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

松山 教宗 議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政について

中項目 (3) サテライトキャンパスについて

質問内容

これまでの事業効果として、連携する大学との協働事業においては、子どもたちを対象とする事業で、美唄市にとっても、大学にとっても、win・winの効果がある事業であると判断しているようですが、現在、まちづくり市民団体が、地域資源を活かし、子どもを対象にしたチョークアートの事業を展開しており、市民参加型の楽しく明るい取り組みであると思うが、このような取り組みをサテライト・キャンパス事業の協働事業で、各大学とより一層の連携の中展開していくことが、本市が実施するサテライト・キャンパスの特色、特異性を発揮できるものとするのか。

答弁内容

（地域資源を活かした事業展開について）であります、
昨年、障がい者雇用によりチョークを生産している地元企業のご協力を頂き、市内のまちづくり団体が中心となり、農道離着陸場で、子どもたちに思い思いの文字や絵を書いてもらうイベントを企画実施されたところでございます。

この取組は地元産チョークを使って子どもたちがアートに親しむことのできる有意義な取組でありますことから、教育委員会といた

しましては、この取組について、次年度のサテライト・キャンパス事業の講座や子供たちに人気のある協働事業のアートキャラバンの中で、黒板など学校の施設を活用し実施していただけるよう協力大学に働きかけてまいりたいと考えております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

松山 教宗 議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政について

中項目 (4) 放課後児童施設の運営体制について

質問内容

来年度以降、市内小中学校の統廃合があると聞いているが、各小学校区にある放課後児童施設について、学校の統合に合わせた配置をしなければならないと思うが、施設の定員や、受け入れの職員体制、地域住民への説明などについて、考え方を伺いたい。

答弁内容

(放課後児童施設の運営体制について) であります、茶志内小学校と峰延小学校については、中央小学校に統合することとなっており、対象の小学校に通う児童は、同一区内の放課後児童施設を利用することとなっております。

このため、中央小学校に通学する児童は、中央小学校区の放課後児童施設の利用となりますが、その場合、閉校となる小学校区域の施設は廃止となり、受入れ先の学区の放課後児童施設には、受入れに対応する定員増などの検討が必要となってくることから、この統廃合の手続きに合わせ、放課後児童施設の適正定員について、今後すみやかに整理してまいりたいと考えております。

次に、職員体制についてですが、国の運営指針に照らし合わせながら、地域事情や個々の児童の様子も勘案し、児童が安全に施設で

過ごすことができるよう、必要な職員を配置しているところですが、統合により利用者が増え、職員の負担も多くなることが予測されることから、今後、定員の見直しと合わせ、職員体制についても、適正配置に努めてまいりたいと考えております。

次に、統合に関連した放課後児童施設についての地域説明についてであります。統廃合の説明会の場で保護者の皆さんから、放課後児童施設の利用に係る質問が寄せられていたため、保護者の皆さんには統合先の学区放課後児童施設に入所できる旨、説明をしてきているところですが、今後についても、関係する保護者等から相談があった際は、施設利用に対して丁寧な説明をしてまいりたいと考えております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

吉岡 文子 議員
教育委員会学務課

件 名 2 教育行政執行方針について

中項目 (1) 児童や生徒の読書推進について

質問内容

- (1) 児童や生徒の読書活動の推進について
- ・ 市内小中学校における読書活動の取り組み状況について
 - ・ 市内小中学校 3 年間の図書費の予算額の推移について
- (2) 学校図書の充実と学校司書について
- ・ 道内における学校司書の配置状況について
 - ・ 学校司書の配置についての今後の考え方について

答弁内容

（児童生徒の読書推進について）であります、
昨年 7 月に、文部科学省が公表した子供の読書活動の推進等に関する調査結果によりますと、読書時間、読書冊数ともに、学年が上がるにつれ減少傾向にあり、1 か月で読んだ本の冊数がゼロ冊と回答した児童生徒の割合は、小学校で 1 割未満、中学校で 1 割から 2 割、高校生が 3 割から 4 割という結果が公表されたところであります。

この調査では、読書離れの要因として、小学生ではテレビやゲームの時間、中学生・高校生ではメールの時間、高校生では、特に部活

動や塾の時間が長いほど、読書の時間が短くなる傾向があると分析しているところでもあります。

本市におきましても、本年度実施した全国学力・学習状況調査の結果からも、テレビやゲームの時間が長く、家庭学習や読書の時間が短い傾向にあることから、確かな学力育成プランの中で、家庭での読書週間の確立、「家読」の取組が明記されたところでもあります。読書活動に対する各学校の取組みにつきましては、「朝読書」、読書推進習慣や図書室の推薦本の紹介、一斉読書の時間や感想文コンクール等を実施しているとともに、市立図書館からは、移動図書館や学級図書の配本を受け、また学校ボランティアによる読み聞かせの時間を設定する等、読書の習慣化に努めているところですが、読書の習慣化に向けては、学校の取組みだけではなく、家庭との連携が必要であることから、今後におきましては、学校での読書環境の充実について計画的な取組にあわせ、学校だより等を通じ、家庭での読書習慣の確立に努めてまいりたいと考えております。

次に、市内小中学校3年間の図書費の予算額の推移についてであります。平成28年度の小学校図書費の予算額は741,000円、平成29年度は1,266,000円、平成30年度は1,926,000円、平成28年度の中学校図書費の予算額は406,000円、平成29年度は676,000円、平成30年度は887,000円となっております。また、図書購入に当たっては、ふるさと納税で青少年育成基金に寄せられた財源を平成29年度から平成31年度までの間、学校図書館図書費購入支援分として小学校1校当たり105,000円、中学校1校当たり67,500円、多く配分されているところです。

次に、平成29年度における道内における学校司書の配置状況についてであります。空知管内の市につきましては現在のところ学校司書は配置されておりませんが、全道18市において、学校司書の巡回勤務や学校の希望により市立図書館から図書館司書の派遣な

どが実施されているところあります。

教育委員会といたしましては、平成 27 年の学校図書館法の改正により、学校司書の配置が努力義務化されたことを踏まえ、学校図書や児童生徒の教育について十分な知識・技能を備え、司書教諭等との連携しつつ、学校図書館の運営・管理や学習支援等を行う学校司書の配置については重要であると考えておりますことから、引き続き、配置に向け検討してまいりたいと考えております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

吉岡 文子 議員
教育委員会学務課

件 名 2 教育行政執行方針について

中項目 (1) 児童や生徒の読書推進について

質問内容

学校図書の充実と学校司書について

・学校司書の配置の必要性和今後の考え方について教育長の見解を伺う。

答弁内容

（学校司書の配置の必要性和今後の考え方について）であります
が、

大人の読書離れが加速化する中、小学校段階から読書習慣を形成させていくことは、大変重要であると認識しております。

その習慣づけのために、学校図書や児童生徒の教育について十分な知識・技能を備え、司書教諭等との連携しつつ、学校図書館の運営・管理や学習支援等を行うことができる学校司書の配置は、美唄市の子どもたちの学力の向上と豊かな心を育む上で必要であると考えているところであります。教育委員会といたしましては、他の自治体での成果も参考にしながら、引き続き、配置に向け、より一層、努力してまいりたいと考えております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

吉岡 文子 議員
教育委員会学務課

件 名 2 教育行政執行方針について

中項目 (2) 不登校対策について

質問内容

不登校対策について

①市内の実態について

②対応について

答弁内容

(不登校対策について) であります、

①市内の不登校の実態についてであります、過去 3 年間における、年間 30 日以上学校を欠席した不登校児童・生徒は、1 月時点で平成 27 年度、小学校 4 名、中学校 9 名、計 13 名、平成 28 年度、小学校 1 名、中学校 22 名、計 23 名、平成 29 年度は、小学校 1 名、中学校 17 名、計 18 名であります。その主な要因としては、「友人関係、集団不適応等」となっております。

②次に、不登校児童生徒への対応についてであります、各学校では、不登校児童・生徒を支えるため、生徒指導に係る校内委員会を設置し、担任を中心に家庭訪問を実施するとともに、教室以外の登校場所や、放課後に登校機会を確保するなど、学校との接点づくりに努めているところであり、教育委員会といたしましても、適応指導教室の利用やスクールソーシャルワーカーによる相談

業務、スクールカウンセラーによる子どもの心のケアを通して、子どもたちが、学校復帰するだけでなく、自立し、より良い人生を送れるように学校と連携し取り組んでまいります。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

山崎 一広 議員
教育委員会学務課

件 名 3 教育行政について

中項目 (1) 学校教育について

質問内容

①小中学校の適正配置について

本市では、少子化の進行に対応し、適正な学校規模とするために、平成 31 年度に茶志内小学校は中央小学校へ、峰延中学校は美唄中学校へ、平成 32 年度に峰延小学校は中央小学校へそれぞれ統合と決めましたが、父母や先生方からどのような意見や要望があったのかお聞きします。

答弁内容

（学校統廃合に係る意見や要望について）であります、本市では、急速な少子化に対応し、児童・生徒へ適正な規模による良好な教育環境を提供するため、平成 29 年度に「美唄市小中学校適正配置計画」を策定し、8 月より茶志内地区、南美唄地区、峰延地区へ地域説明会を開催してきたところです。茶志内地区及び峰延地区につきましては、10 月より保護者の皆様と協議を重ねてきた結果、茶志内小学校については、今年 1 月 10 日保護者・地域説明会において、平成 31 年 3 月末閉校、同年 4 月 1 日に中央小学校に統合することについて最終合意を得たほか、峰延地区については、中学校は、2 月 6 日に保護者・地域説明会において、平成 31 年 3 月末

閉校、同年4月1日に美唄中学校に統合することについて最終合意を、小学校は、2月26日保護者・地域説明会において、平成32年3月末閉校、同年4月1日に中央小学校との統合について最終合意を得たところであります。

茶志内小学校、峰延小学校及び中学校の各々の保護者、地域説明会等において出された主な意見・要望についてですが、どの学校も共通して、統合による児童生徒の不安を解消するための児童・生徒の交流活動の実施、統合後のクラス編制の配慮、統合元の教職員の統合先への配置、児童・生徒がいじめや不登校にならないような相談体制の強化、スクールバスの経路の見直しや増便についての意見・要望のほか、中学校における部活動の新設についての要望などが多くあったところです。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

山崎 一広 議員
教育委員会学務課

件 名 3 教育行政について

中項目 (2) 社会教育について

質問内容

条例改正され、今年 4 月 1 日から指定管理者の BMC が管理運営を行うところですが、これまでの運営と、どのように変わるのか。また、変えようとしているのか。さらに、新たな取組みはあるのか。

答弁内容

（図書館の指定管理について）であります。

平成 15 年 9 月に地方自治法の一部が改正され、指定管理者制度が導入された当時、公立図書館においては、図書館法等により公務員である館長を配置することが規定されていたことから、本市を含め、ほとんどの自治体において、図書館への制度導入を見送ったところではありますが、その後、館長の身分が緩和されたことに伴い、平成 28 年度末では全国で 501 館、このうち北海道は 12 館に指定管理者制度が導入されているところであり、本市におきましては、行政改革に示されるアウトソーシング化の一環として、本年 4 月 1 日に、指定管理者制度の導入を予定しているところであります。

導入後の図書館サービスにつきましては、指定管理者の公募の際に示した施設管理仕様書に記載されている内容に基づき、開館時間や休館日等をはじめ、ブックスタート事業や学校等への配本事業な

どの既存の図書館事業については基本的に指定管理者に引き継ぐこととしているほか、図書の充実を図ってまいりたいと考えております。

導入後の新たな取組としましては、公募の際、本のインターネット予約や本を借りることが困難な人に対する宅配サービスを自主事業として実施したい旨の提案がありましたが、これら自主事業の実施に当たって、予約システムについてはインターネット環境がない方への対応、また、宅配サービスについては、高齢者の範囲や障がいの程度等、対象の設定や料金設定等、導入にあたっての課題などもありますことから、これらを既に自主事業として取り組んでいる恵庭市などの事例を参考に、指定管理者と連携を図りながらサービスの向上を図り、公立図書館としての役割を維持してまいりたいと考えております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

山崎 一広 議員
教育委員会学務課

件 名 3 教育行政について

中項目 (2) 社会教育について

質問内容

指定管理者制度導入は、サービスの向上と経費節減を図るもの。まずは、指定管理者とじっくり、これから検討してはどうかと思う。そこで、次の点について伺う。

- ① 図書館司書はどうされるのか。司書はいるのか。
- ② 防火管理者について、どのようにされるのか。
- ③ 移動図書館者の運転資格について
- ④ 現在雇用されている嘱託職員や臨時職員はどのようなになるのか

答弁内容

（図書館司書の配置について）であります、

4 月から指定管理を行う予定の事業者において、図書館司書の資格を有する者 2 名と、現在、図書館に勤務する 1 名の合計 3 名の図書館司書を確保しているほか、移動図書館車の運転資格者においては、現在、図書館に勤務する 1 名と当該事業者内で複数名保有している旨を指定管理者予定者に確認しております。

また、防火管理者についても、指定管理者予定者として、既に資格を有している職員がいることを確認しております。

また、現在、雇用されている嘱託職員や臨時職員についても、本

人の意思確認を行い、指定管理者が継続して雇用する予定であることを確認しているところであります。

公立図書館は、利用者サービスの向上を図りながら、充実した蔵書を通じて、自治体の「まちづくり」を体現し、教養と学力の向上に資するための場であり、これらを実現していくためには、指定管理者の有する能力と、斬新的な発想と市民サービスを常に意識した取組が不可欠であると考えておりますことから、教育委員会といたしましては、導入に当たって、指定管理者と密接な連携を保ちながら、市民の誰もが利用したくなる魅力ある図書館づくりに努めてまいります。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

土井 敏興 議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政執行方針について

中項目 (1) 確かな学力の育成等について

質問内容

- ①「学力向上プロジェクトチーム」が果たしてきた役割等の検証と着実に基礎学力を高める具体的な施策の展開について
- ②補充的な学習サポート等の実態や、より積極的な支援を受ける具体的な取り組みについて

答弁内容

（はじめに学力向上プロジェクトチームの役割について）であり
ますが、
学力向上プロジェクトチームは、市内小中学校の校長・教頭・教諭
から構成され、全国学力・学習状況調査や標準学力テストの結果を
分析・検証し、美唄市の子どもたちの学力向上に向けた方策を検討
し提言してきました。提言は、「確かな学力育成プラン」として纏
められ、すべての教職員に配布し、このプランを基に授業改善を図
るとともに、保護者に対しては、「確かな学力育成プラン概要版」
と家庭教育の啓発に向けた「家庭教育の手引き」を配布し、家庭・
地域・学校が一体となって、より質の高い教育の実現を目指してき
ているところです。学力向上プロジェクトチームが果たしてきた役
割の検証につきましては、プロジェクトチームが設立された平成 22

年度と本年度の全国・学力学習状況調査の平均正答率の全国との比較で申し上げますと、小学国語Bが0.5ポイント、中学数学Bが0.1ポイントと僅かに下回りましたが、小学国語Aが2ポイント、小学算数Aが4.1ポイント、小学算数Bが2.3ポイント、中学国語Aが0.7ポイント、中学国語Bが9.1ポイント、中学数学Aが3.6ポイント上回り、全8科目の中で6科目が本年度の方が上回る結果となっており、学力向上に向けたプロジェクトチームの役割は大きいものと考えております。

基礎学力を高める具体的な施策の展開についてですが、学力向上プロジェクトチームの提言においては、学校、家庭・地域、行政の、それぞれの役割と相互連携の取組の必要性を纏めております。

その中で、学校においては、教員の資質向上と学習規律の浸透と次期学習指導要領の核となる主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、北海道教育委員会が進める研究指定事業の積極的な活用、体力向上を目指す「一校一実践」の取組み、平成30年4月から教科となる「特別の教科 道徳」の実践力向上、次期学習指導要領の移行期間中における外国語活動等の試行とALT、外国語指導助手の活用、朝読書や補充的学習の充実、校内研修や教材研究、ICTの積極的活用、幼保小、小中、中高連携教育の推進、コミュニティースクールの実践化についてを挙げ、また、家庭・地域においては、「早寝、早起き、朝ごはん」の徹底、特に朝ごはんについては100%を達成、携帯・スマホのルール作り、家庭学習の手引き等の活用による「家勉」・「家読」の習慣化の確立、家庭での道徳教科書の活用、「親学」等各種研修会や地域行事への積極的参加についてを挙げ、さらに、行政においては、教職員の研修の充実、ICTの効果的な利用促進、家庭学習の手引きの発行、特別支援教育の充実と全学校における生徒指導交流会やスクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーの活用促進、学校地域、関係団体等の連携による地域一斉参観日の実施などについて提言しているところであり、教育委員会といたしましては、この提言を踏まえ、学校教育の

向上に努めてまいります。

次に、補充的な学習サポート等の実態についてであります。小学校においては、長期休業中に北海道教育委員会の学校サポーター事業に登録している学生や学校地域支援本部に登録している退職教員を中心としたボランティアや教員による3日間程度の期間を決め、各自の課題やドリル問題を解く学習に取り組んでいるほか、学校地域支援本部ボランティアによる曜日を決めた放課後学習が行われているところです。

中学校においては、担任や副担任による朝の15分程度の学習、自らの課題を解く放課後の学習、3日間程度の期間を決めた長期休業中の学習を行っているほか、積極的に学習に向かう生徒に対して、長期休業中に教科別に担任を配置して学習を行っている中学校もあり、補充学習は、児童生徒が自主的に学習できる時間と場所と指導者を配置することで、子どもたち同士の教え合いや学び合いも生まれ、より意欲的な深い学びの場となっております。教育委員会といたしましては、今後とも、学校やボランティアの方々と連携し、補充的な学習サポート等の充実に努めてまいりたいと考えております。

平成 30 年 第 1 回 定例会 一般質問

土井 敏興 議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政執行方針について

中項目 (2) 豊かな心の育成等について

質問内容

①新年度からの「道徳の時間」実施に向けて、その準備の進捗状況やスタートと同時にスムーズな取り組みとなるような体制の確立について

答弁内容

（道徳について）であります、
これまでの道徳は、「教科」ではなく、特別活動などと同じ「領域」に位置付けられ、「道徳の時間」として年間 35 時間実施してまいりました。
平成 30 年度からは小学校において、平成 31 年度からは中学校において「特別の教科 道徳」として教科となり、年間 35 時間実施されることとなりますので、小学校では、来年度、教科書が配布され、その内容に従って学習し、評価することになっております。
本年度までは、小・中学校とも、道徳に関して「移行期間」と位置付けられており、文部科学省からは、この移行期間中においては、学校の判断によって「特別の教科 道徳」の内容の一部または全部を実施しても良いとされておりましたので、教育委員会では、本年度、市内小中学校の校長、教諭による道徳教育検討委員会を立ち上

げ、各学校における「特別の教科 道徳」の年間指導計画や全体教育計画の策定、評価の記述の仕方について検討し、来年度の小学校道徳の教科化に備えたところであります。各小学校においては、これら検討内容を基に授業時間を工夫し、これまでの「道徳の時間」から「特別の教科 道徳」への移行の準備を少しずつ進めてきたところでありますが、教育委員会といたしましては、来年度、教科化になることを踏まえ、道徳教科が児童生徒の心の豊かさに繋がるよう、学校、家庭、地域等々と連携し取り組んでまいりたいと考えております。